

# こども通信

3月も大変な月でした。暖かい日もあり、寒い日もある。寒暖差が激しすぎます。

花粉症の方も、さぞ辛いことでしょう。私は花粉症ではないのですが、今は肩身が狭い思いです(笑)。

4月に入り、桜も咲きそうです。高田城址公園の観桜会も始まっています。春の訪れを楽しみたいです。

\* \* \*

麻疹(はしか)の発生が問題になっていきます。今年になつてから、各地で発生があります。

麻疹はとつても怖い病気。全例、高熱がでて、咳なども強くなりま

す。時には死に至ることも(死亡率0.1%)。死なないうまでも、肺炎、脳

炎、中耳炎などを合併することもあります。急性期の脳炎はとても重症

で、後遺障害を残してしまいます。



麻疹が無事に治癒しても、数年から10年ほど経って亜急性硬化性全脳炎(SSPE)を起こすことがあります。麻疹ウイルスの脳内持続感染が原因です。

元気な子(多くは小学生)が学業低下、記憶力低下、歩行異常などで

発症し、次第に動けなくなりま。1から3年で生命に関わる脳炎になるものです。根治的治療はありません。(年齢が小さい方がなりやすく、12ヶ月

月末満では約600人に1人がかかるとされています)

予防はワクチンです。現在は1歳代と、園の年長(小学校入学前の1

年間)での2回接種を行っています。2回接種することで、まずかかるこ

とはありません。0歳半ばかり、母親からの移行抗

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
漢方内科

上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456

ホームページ  
www.kodomo-iin.com



## 感染症情報

インフルエンザの流行はおおむね終息したようです。B型インフルエンザの発生は、当地では少なかったです。

新型コロナウイルス感染症は少ないながら、まだ流行しています。引き続き注意しててください。

感染性胃腸炎の発生が多いです。吐いたり下痢をしたりする感染症で、嘔吐が強いと脱水になることがあります。小さなお子さんでは注意が必要です。

RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症を時々見かけています。いずれも気管支炎を起こすウイルスで、繰り返しかかることがあります。

プール熱(アデノウイルスによる咽頭結膜熱)の発生が少しあります。溶連菌感染症も時々発生があります。いずれも喉の痛みが特徴です。

水痘が若干発生しています。2回のワクチン接種により軽く済んでいる印象です。

百日咳が県内で発生があり、注意が必要です。小学生以上はワクチンの免疫が減少し、かかることもあります。咳き込み発作が特徴です。

麻疹(はしか)も国内で発生があります。2回のワクチン接種でかからなくなるはずですが、生後1歳になったらワクチンを早めに受けるようにしてください。

体が切れ、無防備な状態になります。1歳になったら早めに接種を受けてください。もし流行が身近にあれば、その間に任意接種を受けることも考えてください。

アメリカではワクチン懐疑派(嫌悪派?)が公衆衛生のトップにいて、困った状態になっています。日本も同じ傾向にあるのかもしれない。麻疹ワクチン接種を、規定の回数だけ早めに受けてください。それは自分のお子さんを守るためです。さらにワクチン接種を基礎疾患などで受けられないお子さん、さらに全ての乳児期後半の赤ちゃんを守ることもでもあります。

☆麻疹・風疹予防接種の1期(1歳)と2期(年長)は、上越市でも2年間延長されるそうです。詳しくは市の予防接種担当課まで。

実践

## 地域医療貢献奨励賞

この度、住友生命福祉財団より「第18回地域医療貢献奨励賞」を授与いたしました。大変栄誉のあることであり、嬉しいです。

自治医大学長が選考委員長になり、毎年おおむね6名の方が選ばれます。今年は私を含めて6名の授与が決まりました。

この賞は「医療に恵まれない地域における医療の確保と向上、および住民の福祉の増進を図るため、地域医療に多大な貢献をされている医師

を対象」としています。

地域医療に貢献したとして表彰されたのですが、その点ではいささか疑問があります。

自治医大卒業後、新潟市民病院で臨床研修を受け、その後県立坂町病院にて小児科医として勤務しました。義務年限が終了し、上越に戻って開業しました。

この間は私なりに地域医療に関わってきたつもりですが、特段他の方より優れているとか、秀でているものがある訳ではありません。自治医大の卒業生はみな献身的に努力をするものです。

開業後は自らの病院をより良いものにするために努力をしてきました。各種のパンフレットや通信の作成、ホームページの充実など。これも他でも実施していることです。なので、それだけでは受賞に値しなかつたでしょう。

2001年よりわたぼうし病児保育室を開設し、当初は少ない利用者ですが、年々多くなり、近年では4千人を超える規模になりました。日本の中でトップクラスです（おそ

らくトップだと思えます）。

この病児保育の活動が認められ、受賞に至ったのではないかと思います。

病児保育は「断らない」を原則に、お預かりしています。原則はそれだけですが、これがけっこう大変なことです。

利用者が少ないこともありますし（かつて0の日もありました）、感染症が流行すれば50人ほどになったこともあります（現在では調整して、35人を定員としています）。

利用者数が一定していないのが何よりの特徴です。その利用者も、当日の朝にならないと分からないという、保育士にはストレスフルな職場です。

保育士の数も、利用者の多い時に十分機能できるように備えておかなければいけません（現在10名の保育士が勤務しています）。

余裕のある施設も必要です。わたぼうしはその時々の利用数の拡大から、何度かに渡って拡張工事をしてきました。

そして何より、財源の問題があり

ます。当初は医院の一部として支出は医院でもっていました（預かり児一人一日約一万円かかります）。しかし、規模が大きくなり、赤字幅も数千円となるに従い、限界になってきました。上越市が病児保育事業を立ち上げたのを機会に、その事業を受託。赤字問題に解決の目処がたちました。

しかし、この事業は国の事業を元に行っていました。国は利用者数を2千人に限っていました。それ以上は当院の持ち出しです（今は解決しています）。

また、コロナ禍で利用者数が激減した時に、利用者数に応じて支払われる仕組みでは減収は避けられなかつたのですが、上越市が利用者の最低保証をしてくださり（その分は上越市が持ち出し）、危機を乗り越えることができました。

子育て支援としての病児保育を、これからも続けて行かなければいけないと考えています。

それが「貢献」であり、「奨励」なのでしよう。もつと頑張れというエールだと思っています。

## 表彰状

塚田次郎殿

あなたは永年にわたり献身的に地域医療に取り組まれ医療水準の向上に寄与されました。その姿勢は住民からの厚い信頼を得るとともに後進医師の鑑でもあります。よってここに地域医療貢献奨励賞を贈呈しその功績を称えます。

令和七年三月一日

（財団）住友生命福祉財団  
理事長 藤山 勝伸

